

令和6年度 中南郡老連 芸能発表会

今年度の芸能発表会は中南郡老連（西目屋村・田舎館村・大鰐町・藤崎町）主催（会長は三浦康子西目屋村老連会長）で12月20日(金)10時より藤崎町文化センター大ホールで開催した。

コロナ感染が下火になり参加者は三百人を超え賑やかな芸能発表会となった。

出演数は全体で18演目で、唄（カラオケ）10、レクダンス2、舞踊3、民舞1、漫談1、スコップ三味線1であった。

三浦康子会長の挨拶



三浦会長

今日は足下が不如意な中、沢山おいで下さいまして誠に有難うございました。大いに楽しんで下さい。

次いで司会者山内誠一郎・木村美智子（藤崎町老連副会長）が心揺さぶる軽妙な語りで観衆を沸かせ、開演した。

開演



秋元健治氏

最初は秋元健治さん（大鰐町居士百歳会）の唄「想い」から始まり、出演者の方々はコロナ禍で思い

通り練習出来ず悔しかった思いを振り払う様に元一杯舞台を盛り上げた。また、世代交代で若い年代の方々も出演し、

舞台上に華を添えた。



一條ちづ子氏（藤）北海港節

観客からは「大した唄だった」と感激した声、「いい唄っこだ!!これ聞きたんだネ」と感動した様子。舞踊は新しく出演した一條ちづ子さんやレクダンスが加わり、一つひとつが見てたえがあり、「とてもステキ!!」の声も聞こえ、2時間にわたる芸能発表会は観客を魅了し、館山副会長（藤崎町老連会長）の三本締めで終了。

発行者
藤崎町老人クラブ連合会
藤崎老人福祉センター内
電話 0172-75-3232
Fax 0172-75-2128

抽選会

抽選で幸運な観客者30名に、常盤養鶏産、鶏卵一箱（赤たまご40個入り）が贈られ、当選者は、大きな箱を抱え喜んでいました。これで全日程が終了した。



レクダンス「月明り」 藤崎町老連レクダンス部



会場を盛り上げた大勢の観衆が、三本締めで芸能発表会を閉じた



「泣かせるぜ」司会 山内誠一郎氏



民舞「俵積み唄」 藤崎町老連有志会



舞踊「じょんから恋来い」 藤崎町 三原佳子他4名

遊びと男の料理を楽しむ会

西豊田豊寿会

1月16日(木)10時より藤崎町老人福祉センターに於いて「遊びと男の料理を楽しむ会」を行った。参加者は豪雪のため15名(男5名、女10名)と例年より少なかったのは残念であった。

この会は平成13年度より継続して開催され、会員の楽しみの一つとなっている。内容は日頃からお世話になっている女性達に感謝を込めて、男性達が料理を作り、女性会員をもてなす行事となっている。男性達が料理を作っている間は、女性達が各種のゲームを行い、楽しく過ごしている。

今回の遊びは、「ゲーム機を使って脳と体を動かそう」のスローガンに、青森県の高齢者福祉助成事業を町役場が主管し、単位クラブ等の団体に「ゲーム機」を貸し出し、高齢者の不得意なデジタル機器を体験することで、会員間の交流や家族との世代間交流を期待し、楽しく遊べる事を目的とするものである。

ゲームの指導は「ドコモ青森」の鈴木さんと川村さんが行い、町役場からは福祉課職員が同席した。ゲーム機は「任天堂スイッチ」で、ゲームソフトはボウリング・バドミントン・バスケットボール・ゴルフ等を用意してきたが、時間の関係でボウリングとバドミントンを体験した。

会員は興味津々順番で体験し、実際の競技と同じ感覚で動くテレビの画面にその様子が表示され、自分の動作（運動）が思い通りに画面に表現されるので、歓声を上げて喜んでいました。体験後は、ゲーム機でどんなことが出来るのか指導員に詳しく質問し、孫と対戦してみたいなどの感想を漏らしていた会員もいた。

2月行事予定表			
日	曜	行事	時刻
1	土	レクダンス部	9:30
		日本舞踊部	13:00
2	日		
3	月	芸能部	12:00
4	火	老連役員会	10:00
		囲碁・将棋部	12:30
5	水		
6	木	囲碁・将棋部	12:30
7	金	常盤小 昔の遊び	10:00
		レクダンス部	9:30
8	土	ふじ健大OB会	11:00
		日本舞踊部	13:00
9	日		
10	月	生け花部	10:30
		芸能部	12:00
11	火		
12	水	茶道部	13:00
13	木	女性部役員会	9:00
		囲碁・将棋部	12:30
14	金		
15	土	冬季トランプ大会	9:00
		日本舞踊部	13:00
16	日		
17	月	芸能部	12:00
		広報委員会	13:30
18	火	囲碁・将棋部	12:30
19	水	老連監査会	
20	木	囲碁・将棋部	12:30
21	金	藤小2年遊びランド	10:00
22	土	レクダンス部	9:30
		日本舞踊部	13:00
23	日		
24	月		
25	火		
26	水	茶道部	13:00
		【白寿】配布日	16時～
27	木	囲碁・将棋部	12:30
28	金		

冬季トランプ大会のお知らせ（再掲）

一、日時 2月15日(土) 午前9時開会 (受付8時30分)

(受付8時30分)

二、場所 藤崎町老人福祉センター集会所

三、対象者 町内老人クラブ会員で男女は問わず

四、種目 個人戦のみ(午前3試合)

★3回戦の取得点数の合計点で決定。

五、会費 壹千円 (賞品・弁当代当日集金)

六、申込締切 締め切りました。



ゲーム体験は1時間程で終了し、男性会員によるお楽しみな料理は「カレーライス」で味も良く副菜も彩りと栄養も考えられていた。参加者は料理と飲み物で談笑し、久しぶりの出会いを楽しんで過ごしていた。

老いを愉しく

第十一回

元ときわ会病院長 永山隆造

コロナやインフルエンザの流行中ですが、老いても負けず元気で愉しい年にしましょう。

人間は感謝や感動などのプラスの感情が多いほど生命力が強くなり元気がなります(第五・六・七回を見て下さい)。また人は「窮乏や貧困を経験すると感謝や感動が強くなる」と言われています。

私は今年満九十才、幸か不幸か戦前・戦中・戦後の窮乏生活を経験して、今は多くの感謝と感動して過ごして居ます。

そんな経験の一端を書くことにします。

私は昭和十年鎌倉市生まれ。昭和十六年、六才の時に神奈川県横浜市に移り住む。同年、日本は米国と開戦、八才の時に空襲にも会い、横浜から秋田県の鹿角市に疎開。昭和二十年、十才の時に日本敗戦。昭和三十年弘前大学医学部入学。昭和三十七年医師になり、昭和四十九年に旧常盤村に病院を開設。令和二年八十三才ときわ会病院辞職。

これが私の略歴です。

△戦前▽ 小学校に入るまで鎌倉の海は遠浅の広い砂浜と蟹や小魚がとれる磯があり、子供達の遊び場だった。漁師達は朝早く地引き網漁をして、子供達は網の目からこぼれる小魚をバケツいっぱい拾って帰り、母に喜ばれたものだった。

戦前時代は特に不足も知らない子供だった。

△戦時中▽ 小学校に入る前年の昭和十六年十二月八日、第二次世界大戦(当時は大東亞戦争と言った)が始まった。「大本営発表、大日本帝国は真珠湾攻撃に成功せり！」とラジオが叫び、家中ざわついていた事を今でも心に焼き付いている。

この日の少し前から私の家族は鎌倉から横浜市に移っていたのだが、この日から悲惨な小学校(この時から国民学校と言った)時代が始まった。

日本最大の横浜港、近くに横須賀海軍の軍港、京浜工業地帯が一大軍需工場だったから、横浜は日本の中で最も早く戦争の影響を受けた地域であった。最初に受けた影響は「食糧難」で、子供には非常に辛い時代の始まりだった。(次号に続く)

常盤ひとり旅

第二十二回

石澤清五郎

あけましてお目出とうございませう。今年も酉年、暗闇の邪を祓い黎明の時を一番に告げる太陽神の遣いだといふこの酉に負けずに頑張ろうと初詣で八幡宮に誓って来たが傘寿となつては如何せんと言おう。常盤地区の巻も八幡宮から駅前通りと進み、梅田町とさしかかったが梅田町には小路も多く、そして東にもう一本通りがある。村民の皆さんは温泉通りと称しているようである。この通りに住む石澤ふみは、「梅田町の足跡」(梅田町四十年記念誌、平成八年一月十日発行)に「道路は古来から増設道と称され、二・五m程の幅であつたが両脇は野バラ、フジ茅の自然草木が繁茂し……それから三十有余年道路は六mと舗装され温泉も湧き……夢想地だ……」と記している。まさにそのような土地となつていないかと思わせる。この道、中学校、スポーツプラザに直通であり、かつては国民健康保険組合立常盤病院(この場所を選定した経緯について常盤村史通史編Ⅱは「……理事長浅利崇は「村民の中には、神寄りの国道端に建ててとの希望もあつたが、敷地を買う金が無かつたので、少し奥になるが常盤の石澤勇三さんが一町歩を寄附してくれる(私は一十坪と聞いたが)」というので……、石澤さんの土地に建てることにした」と書かれてある。

昭和四十三年四月三十日、開業医に貸付けされ半分に縮小されたが常盤診療所として利用され便利このうえもない。その向い側に、農業共済組合並びに青森県農業共済組合連合会の直営家畜診療所があつたが、広域合併により姿を消し、隣に常盤村商工会館が昭和四十九年一月十七日開館され、農協ほどではないが関係者の出入りも多く賑わつている。

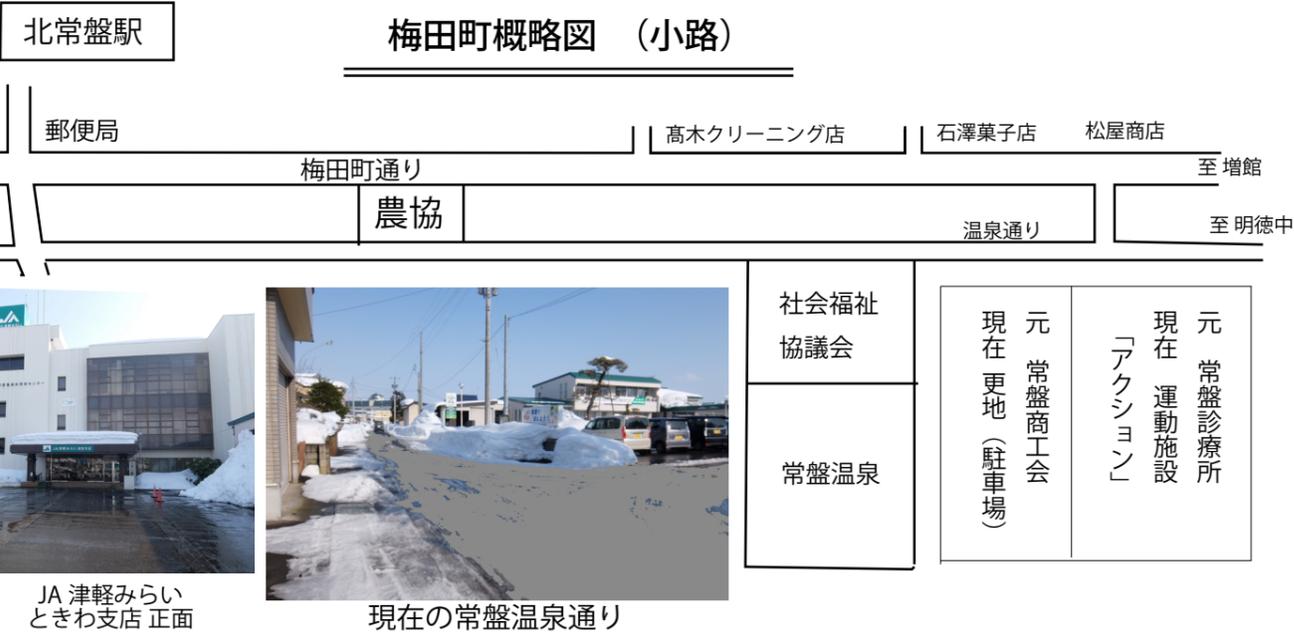
昭和五十一年十二月二十一日、中学校体育館が完成し第二校庭が整備され、生徒の躍動する気合いがこだまし一段と活気づいてきた。

そして昭和五十四年十二月十五日、常盤村農業協同組合総合改善センター・常盤村農業協同組合事務所が落成し(農協関係については「JA常盤村五十周年誌『輝』平成十年十一月二十三日発行を、もう一度書庫から出し愛読して下さい。よって略農協裏口ではあるが出入りが便利となり給水施設が

出来てからは、薬剤散布の時季になると朝早くから軽トラが行列を作り、野菜出荷の車が行き交う銀座?となる。

そして昭和五十五年八月三日、午前九時頃温泉が湧出した。

(この項来月に続く)



歯なしの話 154

佐藤 透

「二番煎じ」
二番煎じはノーベル賞はもらえないのです。ある政治家が言っていたと思うが、一番でないダメ……? (笑い)

今回の自民・立憲かトップを決める戦いでは、立

憲が出馬表明しても、自民が出てくると俄然話題のポリュームが立憲より自民に移ってしまうのだ。ニュースの取り上げ方も然り時間もしかり、更には候補の顔ぶれも然りである。立憲の方はチャレンジャーなのに新鮮味が無いように映ってしまうのは私の見方だけなのだろうか?

ある新聞にも書いてあつたが、野田・枝野・泉など何回も同じメンバーの様な印象を与えてしまう。とても若くて一回当選の吉田晴美(女性)が立候補したのは素晴らしいが、誰も彼女を総理大臣にしたいとは思わないだろう。そして自民の小泉・河野・新人の小林、また、玄人受けのする石破茂などが出てきたら、昔の名前の立憲は何回チャレンジしても、自民の後塵を拝してしまうのではないだろうか? 対等で健全な野党が出て来ない事は自民にとつても不幸なのではないだろうか? 国民はある意味自民に愛想をつかしているところが多々あると思うのだが、それを何ともしやれず、逆転の一発を放つことが出来ないのではないかと思われている野党にもある意味愛想をつかしているのかも知れない。

【白寿】のような広報に政治の事を書くべきではないし、今まで書いたこともなかったが、今回はこの程さように何とか何とかして欲しいといった思いから、初めて述べさせていだいた。

不快に思う方々もいらつしやるのは承知しているが、また失礼とも思っているながら頑張れという意味をこめて一言!

ニッポン チャチャチャ

川柳 常盤地区

寒立馬風雪に耐え産準備 石動寿賀子

歳重ね口先だけは気が若い 大原タエ子

三日前おぼろげになる記憶力 鈴木 てつ

もう沢山雪の記録はお断わり 石澤ゆきこ

大雪に国旗も隠れ年明ける 高木あつ子